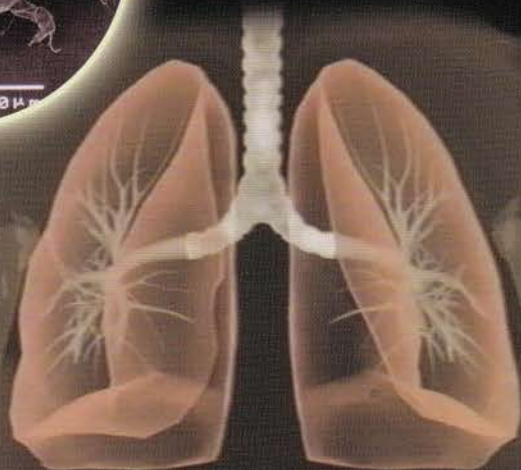


# ぜん息から わが子を守る

## —小児ぜん息の最新治療—



増え続ける小児ぜん息……  
初期対応を誤ると死も招く  
ぜん息とは どんな病気？



### 企画意図

今、子供のぜん息が増えています。しかも、ぜん息の発症は低年齢化していて、ぜん息が始まる年齢をみると、約80%が4歳未満となっています。ぜん息は発作が繰り返り起こるため、発作による苦しさや、いつ発作が起こるか分からない不安が、子供たちや家族を苦しめます。ぜん息は慢性の呼吸器の病気です。ぜん息を治療する為には普段の生活のなかでも適正な処置が必要です。そこで、この作品では、ぜん息の病気の仕組みを分かり易く説明しながら、ぜん息の発作となる原因を探り、ぜん息を治すためには、どんな治療が必要かを示唆していくものです。

## ■小児ぜん息が増えている

今、小児ぜん息が増え続けている。寒い時期になると救急病院は、発作で苦しむ子供たちでいっぱいになる。ある救急病院で、小児ぜん息児をドキュメントしながら、ぜん息は見極めを誤ると急激に悪化し命を落とす病気であることを訴えていく。

## ■ぜん息発作はなぜ起こるのか？

ぜん息患者の気道は常に炎症を起こしており、少しの刺激でも反応して、筋肉の収縮や粘膜のむくみをまねく。その結果、空気の通り道が狭くなり、息苦しいぜん息発作が起こる。

その仕組みをCGで、分かりやすく説明する。なぜ、ぜん息患者の気管支は常に炎症を起こしているのだろうか？

気管支の炎症の大きな原因であるアレルギー反応についてイラストで詳しく説明する。

## ■発作の程度と対処の仕方

ここでは実写で小発作、中発作、大発作の症状を再現し、発作の程度により、どのような対処が適切か説明していく。覚えておくと有効な「腹式呼吸」についてもふれていく。

発作の程度による症状については専門医の話で分かりやすく説明する。

専門医「大発作の時は救急車でいいから一刻も早く病院に来てください……」

## ■発作を予防するには

ぜん息発作を予防するには定期的に通院し、薬を正しく使うことが重要だ。病院に行ったり行かなかったり、薬を勝手に途中で止めてしまうといった行為が、病状の悪化を招き、最悪の結果にもなりかねない。ここでは「発作を予防する薬」、抗アレルギー薬、β2刺激薬、テオフィリン薬、吸入ステロイド薬等の薬のついでの説明と、ステロイド薬の吸入方法を具体的に説明する。

専門医「薬が多くて不安でも、けっして勝手に止めたりしないでください……」

その他、「ぜん息日誌のつけかた」「ピークフローの測り方」等についても具体的に分かりやすく解説する。

## ■生活環境の整備

小児ぜん息の大半はアレルギー性で、そのほとんどがダニアレルギーだ。ここではダニアレルギーの原因、ダニについてふれていく。ダニの研究者の話から、ダニが生息しやすい環境、ダニを減らすにはどうしたらよいか、寝具やカーテンの手入れの仕方などを説明する。

## ■規則正しい生活と運動療法も大事

運動療法の一つとしても日本国内や世界各地で注目されている「ぜん息音楽療法」。音楽に合わせて身体を動かし歌うことで、軽い発作をやわらげる腹式呼吸も会得することができる。

ぜん息は死を招くこともある恐ろしい病気だが、きちんと病気を知っていれば、日常生活の中でコントロールすることのできる病気である。普段から発作を起こさないように注意し、発作が起きた場合は、よく見極めて対処していくことが大切である、と強調して終わる。

●指 導 昭和大学医学部小児科学教室  
教授 板橋家頭夫  
講師 北林 耐

長浜医院 院長 長濱隆史

加地医院 医師 加地はるみ

都市居住環境研究所  
代表 吉川 翠

●スタッフ 制 作……福田義子・高木裕己  
脚本・監督……川崎けい子  
撮 影……松尾研一  
録 音……沢畑 明  
音 楽……徳永由起子  
助 監 督……阿部伸太郎・佐々木良  
ナレーター……小口久仁子

●制作・著作 ぜん息音楽療法研究連合  
株式会社映学社

●お問い合わせ、お買い上げは……

 株式会社映学社  
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-2池与ビル3F  
TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024  
<http://www.eigakusya.co.jp/>